

船舶事故等調査報告書

平成25年2月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012広第206号
事故等種類	衝突
発生日時	平成24年10月14日（日） 11時57分ごろ
発生場所	岡山県笠岡市金風呂港北西方沖 金風呂港東防波堤灯台から真方位300° 600m付近 （概位 北緯34° 23.6′ 東経133° 31.3′）
事故等調査の経過	平成24年11月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート エーエスケー ASK、5トン未満 271-31225岡山、有限会社エー・エス・ケー B プレジャーボート きのこ丸、5トン未満 271-8277岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 B 船長B、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	A 船首部に擦過傷 B 左舷船首部に擦過傷、操舵室前面窓ガラスに破損
事故等の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、金風呂港北西方沖を東進中、船長Aが左舷方にいた知人の船舶を見ていたところ、平成24年10月14日11時57分ごろA船の船首部とB船の左舷船首部とが衝突した。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、金風呂港北西方沖において船首を北東方に向けて漂流中、船長Bが、釣りをを行い、見張りを行っていないところ、A船と衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波 なし、潮汐 下げ潮の初期、潮流 西流
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	A あり、B あり A なし、B なし A なし、B なし A船は、金風呂港北西方沖を東進中、船長Aが、左舷方にいた知人の船舶を見ており、見張りを行っていないことから、A船の船首部とB船の左舷船首部とが衝突したものと考えられる。 B船は、金風呂港北西方沖において漂流中、船長Bが、釣りをを行い、見張りを行っていないことから、B船とA船とが衝突したも

	のと考えられる。
原因	本事故は、金風呂港北西方沖において、A船が東進中、B船が漂流中、船長A及び船長Bが共に見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 漂流中であっても、常時、見張りを適切に行い、接近する船舶があれば、早めに音響を発するものを使用して注意を喚起すること。